

日本体育大学大学院

令和8年度入学者選抜【出題の意図・解答又は解答例等】

研究科・課程	教育学研究科・博士前期課程
実施期	Ⅱ期試験
試験科目	筆記試験（専門科目）

【出題の意図・解答例】

共通問題

（出題の意図）

教科教育の追究を志す学生として、現在の初等中等教育の現状を適切に捉えること、また、それに対して自分の考えを明確かつ具体的にもつことは外せない能力である。そのため、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（令和6年12月25日）で示された教育の現状を踏まえ、それに対する受験者の考えを論じてもらう。

（解答例）

デジタル学習基盤を効果的に活用しつつ、そのリスクを最小限に抑えるための留意点と改善策を、国語科を例に考える。留意点を二点挙げる。

一点目は、インターネット上には誤情報や偏った情報が存在し、学習者がその真偽を判断することが容易ではないことである。情報の信憑性や論理性を吟味する力を養わないままデジタル情報に触れると、誤った認識を形成する可能性がある。二点目は、デジタル環境での対面コミュニケーションの機会の減少である。デジタルでのやり取りが増えることで、言葉のもつニュアンスや非言語的な情報を読み取る力が低下し、コミュニケーション能力が育まれにくくなる恐れがある。

これらの留意点を踏まえた改善策としては、まず、インターネット上の多様な文章を題材に、情報の出所、筆者の意図、情報の根拠の信頼性等を多角的に分析する授業を強化することを挙げたい。例えば、一つの事象について複数の報道を比較し、各々の論調や使われている言葉の違いを分析させ、その背景にある意図を読み解くといった学習が考えられる。次に、直接的な対話の機会を作り、そのよさや重要性を認識させる授業を積極的に行うことを挙げる。例えば、オンライン学習を行った場合でも、その後、対面で「言葉の選び方で誤解が生じた点はなかったか」「相手の表情や声のトーンから何を読み取ったか」などを振り返ることが考えられる。

これらを意図的・計画的に実践することで、デジタル学習基盤は、学習者の言語能力を一層高め、情報社会を生き抜くための言葉の力を育成する強力なツールとなろう。

選択問題：体育科教育

(出題の意図)

現行の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくためのカリキュラム・マネジメントの重要性が示された。当然ながら、指導計画の作成においてはこうしたカリキュラム・マネジメントの観点と各教科の目標とを併せて検討していくことが求められる。

以上のことを踏まえながら、具体的にある学年を想定した際の指導計画の策定についての考えを問う。

(解答例)

体育科では従来、技能の向上にばかり焦点をあてたような授業が展開されることがも多かったが、現在の学校教育では、「知識・技能」のみならず、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの目標について、バランスよく育むことが求められている。問題文にある、指導計画の作成と内容の取扱いの一文についても、思考力や判断力、学びに向かう力、人間性の育成が重要であると捉えられていることが読み取れる。

このことを踏まえて、例えば6年生では、1年生から5年生までに学んだ色々な運動の基礎基本や、自分の得意不得意の傾向、運動の楽しみ方といったことを総括していくような指導計画を立てると良いのではないかと考える。具体的には、各運動領域の内容は、5年生までに扱ってきたものを少し発展させるような運動を年間を通じて配置していくことによって、自己の課題を発見しやすいようにしたり、解決方法についても、これまでの経験をもとに仲間と一緒に考えて実行できるような活動を取り入れたりするようにするのが良いのではないだろうか。

また、学年の最後には全員が楽しめるような内容を自分たちで考えて行うスポーツ大会を位置づけ、運動の楽しさや喜びを味わわせることで、中学校での体育学習に向けて意欲を高めていくことが良いのではないかと考える。